

新専門医制度 内科領域 モデルプログラム

慶應義塾大学

内科専門医研修プログラム・・・・・・・・・・P.1

内科専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・P.19

研修プログラム指導医マニュアル・・・・・・・・P.23

慶應内科専門研修コース・・・・・・・・・・P.25

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術技能評価手帳』は、
日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

慶應義塾大学医学部内科専門医 研修プログラム

目次

1. 慶應義塾大学内科専門医研修プログラムの概要
2. 内科専門医研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
5. 学問的姿勢
6. 医師に必要な倫理性，社会性
7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
8. 年次毎の研修計画
9. 専門研修の評価
10. 専門研修プログラム管理委員会
11. 専攻医の就業環境（労働管理）
12. 研修プログラムの改善方法
13. 修了判定
14. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
15. 研修プログラムの施設群
16. 専攻医の受け入れ数
17. Subspecialty 領域
18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件
19. 専門研修指導医
20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）
22. 専攻医の採用と修了

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、東京都の慶應義塾大学病院を基幹施設として、関東（栃木県、東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）、および静岡県の連携施設での内科専門研修を経て東京および関東近郊の医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように指導します。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1 年間 + 連携施設 2 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度 [研修カリキュラム](#) に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く 様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

使命【整備基準 2】

- 1) 内科専門医として、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく 全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本研修プログラムとして「慶應内科専門研修コース」を用意しています。基幹施設である慶應義塾大学病院での 1 年間の研修と、関東（栃木県、東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県）および静岡県の連携施設のうち 2 施設での各 1 年間の研修を行います。本研修により大学病院特有の高度先進医療と本来東京の医療圏のみでは経験が困難である地域医療における症例経験が可能となり、幅広く

バランスのとれた研修が可能です。3年間の研修施設の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能です。なお本プログラムにおける連携施設とは長年に渡り、強い結びつきのなかで診療を行ってまいりました。また従来の専門医の育成および教育も相互の協力関係のなかで行い、多くの医師を育て輩出してきた実績があります。

- 2) 「慶應内科専門研修コース」は、1年間慶應義塾大学病院内科にて内科全科（呼吸器・循環器・血液・リウマチ・消化器・神経・腎臓内分泌代謝の7科）ローテートすることができます。慶應では伝統的に「内科は1つ」と考えており、すべての科をローテーションして学ぶ長い歴史をもち、すぐれた内科医を数多く輩出してきた実績があります。本プログラムでは1)一般的な疾患だけでなく、大学病院特有の高度先進医療が必要な疾患を含めて、1年間で内科全般の臨床研修ができること2)日本を代表する優れた指導医の直接の指導のもとで subspeciality の専門医として高度医療を学ぶことができること3)common disease に関し知識や技術を豊富な症例をもつ市中病院で学ぶことができることは本コースの強みと考えています。連携施設での2年間の研修は common disease に関し内科全般にわたる医療の実践力をつけるとともに、地域医療における数多くの症例の経験も可能となります（詳細は「2. 内科専門医研修はどのように行われるのか」でご紹介します）。3年間の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、いずれの施設においても専門性を念頭に研修しつつ内科全般を研修を並行することも可能です。本プログラムに参加することにより、内科学会が規定する症例についてゆとりをもって経験することができます。また基本的に剖検例は大学病院で経験することが多いですが、仮に経験することがなくとも、連携病院において十分に経験可能なプログラムとなっています。
- 3) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できるよう指導します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 4) 専攻医2年修了時で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
- 5) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、2年間立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を理解し、実践することができるようになります。
- 6) 専攻医3年修了時で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できる体制とし、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準 3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。本プログラムでは慶應義塾大学病院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか【整備基準：13～16, 30】

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3年間の研修で育成されます。
- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」に基づいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム（以下、「専攻医登録評価システム」）への登録と指導医の評価と承認によって目標達成までの段階を up to date に明示することとします。3年間の研修施設の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能です。例えば、「専門研修1年目を慶應義塾大学病院、専門研修2・3年目を連携施設」、あるいは「専門研修1・2年目を連携施設、3年目を慶應義塾大学病院」のように構成することが可能です。以下に到達目標の一例を示します。

<「専門研修1年目を慶應義塾大学病院、専門研修2・3年目を連携施設」の場合>

○専門研修1年

慶應内科専門研修コース」の特色である慶應義塾大学病院内科にて内科全科（呼吸器・循環器・血液・リウマチ・消化器・神経・腎臓内分泌代謝の7科）を1年かけてローテーションします。

- 症例：カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。

- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修 2 年

専攻医 2 年次は，大学でのローテーションの中で学んだことを活かし，豊富な症例を持つ連携施設で 1 年間研修し，内科全般にわたる医療の実践力をつけます。

- 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し，日本内科学会専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。また地域住民を対象とした健康増進活動および予防医療を実践できるようにするとともに救急医療を通じて地域住民の健康機器に適切に対応しながら病診・病病連携を経験し学びます。
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修 3 年

専攻医 3 年次は，別の連携施設にて 1 年間，より専門性を念頭に研修，あるいは内科全般を研修するとともに，地域医療における数多くの症例の経験を行います。

- 疾患：主担当医としてカリキュラムに定める全 70 疾患群，計 200 症例の経験を目標とします。但し，修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群，そして 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を専攻医登録評価システムへ登録します。既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。また地域住民を対象とした健康増進活動および予防医療を主導できるようにするとともに救急医療を通じて地域住民の健康機器に適切に対応します。また在宅医療，地域包括ケアにも参画し，病診・病病連携が実践できるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナルリズム，自己学習能力を習得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。

<内科研修プログラムの週間スケジュール>

週間スケジュール(呼吸器内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	病棟業務 初期研修医 指導	関連病院で の外来(外 勤)	教授回診 病棟業務	病棟業務 初期研修医 指導	病棟カンファ レンス	病棟業務 初期研修医 指導
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	関連病院で の外来(外 勤)	病棟業務	病棟業務
夕方	気管支鏡カン ファレンス	病棟カンファ レンス	肺癌カンファ レンス(呼吸 器外科、放射 線科合同)	気管支鏡カン ファレンス 症例カンファ レンス		

週間スケジュール(リウマチ内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	教授回診	関連病院で の外来(外 勤)	病棟業務 初期研修医 指導	病棟業務 初期研修医 指導	病棟業務 初期研修医 指導	病棟業務 初期研修医 指導
午後	病棟業務 初期研修医 指導	慶應外来	病棟業務	准教授回診	病棟業務	病棟業務
夕方	病棟ミーティ ング	病棟業務 初期研修医 指導	病棟ミーティ ング	病棟ミーティ ング	症例カンファ レンス	

整形外科・リハビリテーション科合同カンファレンス:6か月毎

週間スケジュール(循環器内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	病棟カンファ 病棟業務	慶応外来	病棟クルズス 病棟業務	症例検討会 教授回診	病棟業務	病棟業務
午後	関連病院での 外来(外勤)	病棟業務	心カテ検査	病棟業務	心エコー検査	病棟業務
夕方	内科外科合 同カンファ	臨床&研究 カンファ			病棟カンファ	

週間スケジュール(神経内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	病棟業務	神経生理検査 (筋電図等)	慶応外来	病棟業務	関連病院での 外来(外勤)	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	教授回診 リハビリ科合同 カンファ(毎週)	病棟業務	疾患クルズス
夕方	病棟カンファ レンス		全体カンファ レンス	症例カンファ レンス CEA/CASカン ファレンス		

脳外科合同カンファレンス:4か月毎
精神科合同カンファレンス:4か月毎

週間スケジュール(血液内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	病棟業務	病棟業務	関連病院での外来 (外勤)	教授回診	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	関連病院での外来 (外勤)	病棟業務	合同カンファレンス (看護師、薬剤師、 リハビリ科、精神科、 口腔外科、移植コーディネーター等)	病棟業務
夕方	病棟カンファレンス	臨床カンファレンス	病棟カンファレンス	血液疾患クルズス	病棟カンファレンス	

週間スケジュール(腎臓内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	慶應外来	関連病院での外来(外勤)	新入院カンファレンス	病棟業務	教授回診	慶應外来
午後	病棟業務	病棟業務 腎生検 CAPDカンファレンス	病棟業務	病棟業務 (内分泌カンファレンス)	病棟業務	病棟業務
夕方					臨床カンファレンス 症例検討会	

週間スケジュール(消化器内科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	病棟業務	合同カンファレンス (内科外科放射線科)	病棟業務	関連病院での外来(外勤)	内科外科カンファレンス 病棟業務	病棟業務
午後	病棟カンファレンス	病棟業務	新入院カンファレンス 教授回診	病棟業務	関連病院での外来(外勤)	疾患クルズス
夕方		臨床カンファレンス 症例検討会	内視鏡カンファレンス			

内視鏡カンファレンス:2か月毎

週間スケジュール(内分泌代謝科の例)

	月	火	水	木	金	土 (2, 4, 5週のみ)
午前	慶應外来講師回診	関連病院での外来(外勤)	新入院カンファレンス	病棟業務	教授回診	慶應外来
午後	病棟業務 産科とのGDMカンファレンス ユメディカルとの病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務	内分泌カンファレンス 甲状腺細胞診	病棟業務 糖尿病教室	研修医クルズス
夕方	病棟糖尿病教室	代謝カンファレンス		病棟チーフとのミーティング	臨床カンファレンス	

脳外科合同カンファレンス:6か月毎

なお、専攻医登録評価システムの登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3年を通じて行う現場での経験】

- ① 専攻医 1 年目から初診を含む外来（1 回/週以上）を通算で 1 年以上行います。
- ② 当直（1 回/月）を経験します。

4) 臨床現場を離れた学習

各診療科において、専攻医対象のクルズスや症例カンファレンスが開催されており、そこで学習することができます。内科系学術集会、JMECC（内科救急講習会）等においても学習が可能です。

5) 自己学習

[研修カリキュラム](#)にある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。図書館（メディアセンター）を通じ、多くの医学雑誌の電子ジャーナルの閲覧が無料で可能であり、アカウント登録により個人の PC でも閲覧ができます。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できます。研修内容などの詳細については教授との相談のなかで決めていくことになります。

7) Subspecialty 研修

本プログラムでは 3 年間の研修施設の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、Subspecialty 研修についても平行できます。すなわち 3 年間の内科研修期間のうち最終年度に最長 1 年間、内科研修の中で重点的に行うプログラムを基本としていますが、当初より目標とする専門科がある場合には並行する形で研修を進めることができます。詳細はそれぞれの研修先で相談することが可能です。

3. 専門医の到達目標 項目 2-3) を参照 [整備基準：4, 5, 8~11]

- 1) 3 年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。
 - ① 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。
 - ② 日本内科学会専攻医登録評価システムへ症例（定められた 200 件のうち、最低 160 例）を登録し、それを指導医が確認・評価すること。
 - ③ 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
 - ④ 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習

能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、[研修手帳](#)を参照してください。

2) 専門知識について

[内科研修カリキュラム](#)は総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の13領域から構成されています。慶應義塾大学病院には7つの診療科（呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内分泌代謝内科、神経内科、血液内科、リウマチ内科）が複数領域を担当しています。また救急疾患は各診療科や救急科によって管理されており、慶應義塾大学においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて専門知識の習得を行ないます。さらに連携施設を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療経験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地域または県外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。具体的には、地域住民を対象とした健康増進活動および予防医療の実践、救急医療を通じた地域住民の健康への適切な対応、病診・病病連携を実践、主導し、在宅医療、地域包括ケアにも貢献できるよう指導します。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 [整備基準：13]

- 1) チーム回診：指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。
- 2) 教授回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。
- 3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。
- 4) 診療手技セミナー：各科で必要な特殊な手技について指導医から指導を受けます。
- 5) CPC：死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。
- 6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナルリズムについても学びます。
- 7) 抄読会：受け持ち症例などに関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行います。
- 8) Weekly summary discussion：週に1回、指導医とのを行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
- 9) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢 [整備基準：6, 30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います（evidence based medicine の精神）最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。特に大学での研修では基礎力とともに大学でしか経験できない専門性の高い症例に挑む臨床力を養い、連携施設での2年間では特に common disease に対する実践していく力をつけているプログラムになっています。本プログラムでは3年間

の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能です。

6. 医師に必要な、倫理性、社会性 [整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。慶應義塾大学病院では症例経験や技術習得について十分に履修可能ですが、より専門性の高い特殊な症例の診療に当たり、経験できるメリットがあります。一方、連携施設では地域住民に密着し、一般内科医として幅広く common diseases の診療に当たるとともに、病病連携や病診連携といった幅広いネットワークを生かした診療を経験することができます。いずれの病院における研修でも2年目にはこれらを上級医とともに経験して学び、3年目には実践および主導ができるように指導していきたいと考えています。慶應義塾大学病院ではいずれも「医療」における重要な側面と考えており、これらの経験は、専攻医が医療人として自立していく上で重要であると捉えています。したがって当院のいずれのプログラムも複数施設での研修を行うよう設定されています（詳細は項目8を参照のこと）。

先に述べたように、当院のプログラムは、慶應義塾大学病院での研修に加え、連携病院での研修が行われますが、多岐にわたる特色のある連携施設での研修期間を設けています。基幹施設、連携施設ではそれぞれ経験できる症例の分布が異なりますので、本プログラムでは研修不十分となる領域を互いにカバーできるように研修を進めることが可能です。さらに、入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動を習得することも目指していきます。なお、本プログラムでは連携病院へのローテーションを行うことで、地域による人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献することを念頭に置いています。このシステムはすでに慶應における専門医育成の歴史の中で培われてきたもので、今後もこのシステムがより機能し、さらなる地域医療の発展につながればと考えております。

本プログラムは医療人としての全人的な成長を促すことを基本に考えており、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を修得できます。さらに患者医師関係の重要性を認識しており、これらを学ぶ機会も充実するよう心がけています。例えばインフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて修得、さらに医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を身近で学びながら獲得していくことができます。

さらに、医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講するよう促すシステムが構築されています。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方 [整備基準：25, 26, 28, 29]

本プログラムは、医療人育成の観点から医療における様々な局面の経験の重要性を認識しており、症例経験や技術習得に関し慶應義塾大学病院および連携病院において幅広い研修を行うことが望ましいと考え、その経験が可能であるように追究しています（詳細は項目10と11を参照のこと）前述のように、基幹施設および連携施設では経験できる症例の分布が異なりますので、双方の研修を行うことにより、互いに研修不十分となる領域をカバーできるように研修することが可能です。さらに、入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動を習得することを目指します。なお、本プログラムでは連携病院へのローテーションを行うことで、地域による人的資源の集中を避け、派遣

先の医療レベル維持にも貢献しています。特に連携施設では在宅診療、介護事業との collaboration があり、地域に密着した医療の経験を積むことができます。さらに施設内および連携施設で形成されるネットワーク内で開催されるセミナーへの参加も可能となります。地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し、定期的に基幹病院および連携病院のミーティングを開催、指導医と面談しプログラムの進捗状況を相互に報告します。項目 2 でも触れていますが、特に連携施設では地域医療へ積極的に参画し、貢献できるようそのスキルを学び、実践していくことを学びます。

8. 年次毎の研修計画 [整備基準：16, 25, 31]

本プログラムでは「慶應内科専門研修コース」を準備しています。慶應では伝統的に「内科は1つ」と考えており、すべての科をローテーションして学ぶ長い歴史をもち、多くのすぐれた内科医を多数輩出してきた実績があります。専攻医は1年間慶應義塾大学病院内科にて内科全科（呼吸器・循環器・血液・リウマチ・消化器・神経・腎臓内分泌代謝の7科）をローテートすることが可能です。連携施設では2年間、地域医療の中で数多くの内科の common disease を全般的に経験できます。本プログラムでは3年間の研修施設の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、専門科の志向のある研修医はいずれの施設においても専門性を念頭に置いた研修を行うことも可能です。さらに大学院入学について検討することもできます。本プログラムでは遅滞なく内科専門医受験資格並びに subspeciality の専門医資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後 5-6 年で内科専門医、subspecialty 領域の専門医を取得することが可能です。研修の流れは項目 2 を参照してください。

【慶應内科専門研修コース】

「慶應内科専門研修コース」は、1年間慶應義塾大学病院内科にて内科全科（呼吸器・循環器・血液・リウマチ・消化器・神経・腎臓内分泌代謝の7科）を1年かけてローテートすることが可能で、一般的な疾患だけでなく、大学病院特有の高度先進医療が必要な疾患を含めて内科全般の臨床研修ができます。また連携施設2年間内科全般を研修し地域医療において数多くの common disease の経験ができます。本プログラムでは3年間の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、研修委員会委員長、プログラム統括責任者が決定します。また、専門科の希望並びに専門医資格の取得もしくは大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上担当教授および連携施設と協議し、研修内容について決めていくこととなります。

9. 専門医研修の評価 [整備基準：17～22]

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に1回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修委員会は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。また研修担当委員会は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

② 総括的評価

専攻医研修3年目の3月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終

的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格, 所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医および研修担当委員会による総合的評価に基づいてプログラムの修了判定が行われます。この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など）から、接点の多い職員 5 名程度を指名し、毎年 3 月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

④ ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会と総括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻医研修終了時に 1 名選出し、表彰状を授与します。

⑤ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めません。

10. 専門研修プログラム管理委員会 [整備基準：35～39]

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を慶應義塾大学医学部に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。委員長はプログラム管理委員会へも参加します。

2) 専攻医外来対策委員会

外来での症例（おもに初診症例）を経験するために研修委員会にて専攻医外来対策委員会を組織し、外来症例の割当を調整するシステムを構築します。未経験疾患患者の外来予定の連絡がきたらスケジュールを調整の上、外来診察を促します。専攻医は外来指導医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めます。

11. 専攻医の就業環境（労務管理） [整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。労働基準法を順守し、慶應義塾大学の「医学部卒後臨床研修制度（専修医コース）に関する内規」、および「医学部専門教育科目担当の助教に関する内規 専修医に関する細則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と保健管理センターで管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会で

は各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

3 カ月毎に研修プログラム管理委員会を慶應義塾大学病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては専門研修プログラム管理委員会および研修委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13. 修了判定 [整備基準：21, 53]

日本内科学会専攻医登録評価システムに以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることを研修委員会が確認し、プログラム管理委員会が承認する形で修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと

[整備基準：21～22]

専攻医は所定の様式を専門医認定申請年の 1 月末までに研修委員会に送付していただくことになります。プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群 [整備基準：23～27]

本プログラムは慶應義塾大学病院が基幹施設となり、永寿総合病院、東京都都立大塚病院、荻窪病院、北里研究所病院、国家公務員共済組合連合会立川病院、国立病院機構東京医療センター、東京都済生会中央病院、東京都済生会向島病院、日野市立病院、河北総合病院、練馬総合病院、国際医療福祉大学三田病院、川崎市立井田病院、川崎市立川崎病院、けいゆう病院、日本鋼管病院、平塚市民病院、横浜市立市民病院、済生会横浜市東部病院、JCHO 埼玉メディカルセンター、さいたま市立病院、国立病院機構埼玉病院、東京歯科大学市川総合病院、足利赤十字病院、済生会宇都宮病院、佐野厚生総合病院、静岡赤十字病院、榊原記念病院、国立がん研究センター東病院、国立がん研究センター中央病院を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療経験が可能となります。

16. 専攻医の受入数

慶應義塾大学病院における専攻医の上限（学年分）は 40 名です。

- 1) 慶應義塾大学病院に卒後 3 年目で内科系講座に入局した後期研修医は過去 3 年間併せて約 100 名で 1 学年 33～36 名の実績があります。
- 2) 慶應義塾大学病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を 一医局あたり数名の範囲で調整することは可能です。
- 3) 剖検体数は 2013 年度 38 体、2014 年度 31 体、2015 年度 43 体です。
- 4) 経験すべき症例数の充足について

表. 慶應義塾大学病院診療科別診療実績

2014 年実績	入院患者実数 (人 / 年)	外来延患者数 (延人数 / 年)
消化器内科	1477	59936
循環器内科	1910	36028
糖尿病・代謝・内分泌内科	352	28647
腎臓内科	435	21695
呼吸器内科	1153	28747
神経内科	563	28830
血液・膠原病内科	725	45410
腫瘍内科	0	9401
心療内科・緩和ケア科	0	1254
ER 科	211	7786

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群のうち、50 において充足可能でした。外来や救急で経験できる症例数を加えれば、慶應義塾大学病院一年間の研修のみでも十分に 56 疾患群の修了条件を満たすことができ、本プログラムに参加することにより、内科学会が規定する症例についてゆとりをもって経験することができます。また基本的に剖検例は大学病院で経験することが多いですが、仮に経験することがなくとも、他の連携病院での 2 年間の研修においても経験可能なプログラムとなっています。

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す subspecialty 領域が決定し、十分な症例経験ができていれば、3 年間の研修の中で、専門研修にも軸足をのけた研修が可能となります。各領域の専門医に関しても、内科専門医取得後、速やかに取得することが可能となります。これらを考慮し本プログラムでは 3 年間の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能です。

18. 研修の休止・中断プログラム移動, プログラム外研修の条件 [整備基準: 33]

- 1) 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を6カ月とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6カ月以上の休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医 [整備基準：36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（first author もしくは corresponding author であること）、もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【選択とされる要件（下記の1, 2いずれかを満たすこと）】

1. CPC, CC, 学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読, JMECC のインストラクターなど）

※但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系 Subspecialty 専門医資格を1回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間（2025年まで）においてのみ指導医と認めます。

20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等 [整備基準：41～48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行います。

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査） [整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22. 専攻医の採用と修了 [整備基準：52, 53]

1) 採用方法

慶應義塾大学内科専門研修プログラム管理委員会は、毎年 4 月から専攻医の応募を受付けます。プログラムへの応募者は、9 月 30 日までにホームページの Web エントリーから入力し、応募申請書および履歴書を印刷、提出してください。提出種類の詳細は (1) 慶應義塾大学専攻医研修センターの website (<http://www.med.keio.ac.jp/sotsugo/kouki/koukiguide.html>) よりダウンロード、(2) 電話で問い合わせ (03-5363-3249)のいずれの方法でも入手可能です。原則として 10 月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については 12 月の慶應義塾大学内科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の 4 月 1 日までに以下の専攻医氏名報告書を、慶應義塾大学内科専門研修プログラム管理委員会および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

- 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度
- 専攻医の履歴書
- 専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

慶應義塾大学医学部内科専攻医研修マニュアル

1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。大学の研修をとおして、常に最新の知識を得る努力ができる救急専門医を目指します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。大学での研修を通して、疾患の背後にある病態を意識し全人的に考える思考過程をもった診療医を目指します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院で内科系の Subspecialty，例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から内科系 Subspecialist として診療を実践します。大学病院においては、各 Subspecialty での指導的役割をもつような高い診療能力を身につけ、社会に貢献します。

2. 専門研修の期間

内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（後期研修）3年間の研修で育成されます。

3. 研修施設群の各施設名

基幹病院：慶應義塾大学病院

連携施設：永寿総合病院，東京都都立大塚病院，荻窪病院，北里研究所病院，国家公務員共済組合連合会立川病院，国立病院機構東京医療センター，東京都済生会中央病院，東京都済生会向島病院，日野市立病院，河北総合病院，練馬総合病院，国際医療福祉大学三田病院，川崎市立井田病院，川崎市立川崎病院，けいゆう病院，日本鋼管病院，平塚市民病院，横浜市民立市民病院，済生会横浜市東部病院，JCHO 埼玉メディカルセンター，さいたま市立病院，国立病院機構埼玉病院，東京歯科大学市川総合病院，足利赤十字病院，済生会宇都宮病院，佐野厚生総合病院，静岡赤十字病院，榑原記念病院，国立がん研究センター東病院，国立がん研究センター中央病院

4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修プログラムについて責任を持って管理するプログラム管理委員会を慶應義塾大学医学部に設置し、その委員長と各内科から1名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

- 2) 指導医一覧
別途用意します。

5. 各施設での研修内容と期間

本プログラムでは、「慶應内科専門研修コース」として、1年間慶應義塾大学病院で専門性のある疾患を中心に内科領域にわたる研修を日本を代表する指導医の元行うことが可能です。また連携施設では2年間common diseaseを中心とした内科全般を研修し、地域医療の現場の中、common diseaseに対する医療の実践について学ぶことができます。本プログラムでは3年間の研修施設の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、Subspecialityに関する研修に軸足を移した研修を希望される場合は、これを考慮した研修が可能です。慶應では伝統的に「内科は1つ」と考えており、すべての科をローテーションして学ぶ長い歴史をもち、多くのすぐれた内科医を輩出してきた実績があります。

6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門医[研修カリキュラム](#)に掲載されている主要な疾患については、慶應義塾大学病院（基幹病院）のDPC病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数（H27年度）をもとにほぼ全ての疾患群を充足することができます（外来での経験を含む）ただし、研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり、初期研修時での症例をもれなく登録すること、外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム（外来症例割当システム）を構築することで必要な症例経験を積むことができます。

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

1) 慶應内科専門研修コース

慶應内科専門研修コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースです。このコースでは、1年間の慶應義塾大学病院内科（呼吸器・循環器・血液・リウマチ・消化器・神経・腎臓内分泌代謝の7科）でのローテートを行い、日本を代表する各科専門医の指導のもと、一般的な疾患だけでなく、大学病院特有の高度先進医療が必要な疾患を含めて研修することが可能です。さらに連携施設にて2年間内科全般を研修し、地域医療において数多くのcommon diseaseの経験が可能です。本プログラムでは3年間の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。また、専門医資格の取得や臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学並びに研修内容について決めて頂きます。

8. 自己評価と指導医評価ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療教育的行事において指導医から受けたアドバイスフィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途

定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

9. プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいて研修委員会およびプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10. 専門医申請に向けての手順

日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。同システムでは以下を web ベース で日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から「専攻研修のための手引き」をダウンロードし、参照してください。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、慶應義塾大学の「医学部卒後臨床研修制度（専修医コース）に関する内規」、および「医学部専門教育科目担当の助教に関する内規 専修医に関する細則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関し

て報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. プログラムの特色

本プログラムの特徴は、3年間の研修施設の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、慶應義塾大学病院内科では内科全科（呼吸器・循環器・血液・リウマチ・消化器・神経・腎臓内分泌代謝の7科）の領域を偏りなく学ぶことも可能ですし、subspecialtyの専門医として専門性の高い疾患について経験することも可能です。すなわち1)一般的な疾患だけでなく、大学病院特有の高度先進医療が必要な疾患を含めて、1年間で内科全般の臨床研修ができること2)日本を代表する優れた指導医の直接の指導のもとで内科全科を十分に学ぶことができること3)学んだ知識や技術を豊富な症例をもつ市中病院での診療に生かすことができることは本コースの強みと考えています。また一般的な疾患だけでなく、いずれの病院においても希望する専門を目指した研修も可能です。プログラム選択後も条件を満たせば他のプログラムへの移行は認められています。また専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における7つの Subspecialty 領域を順次研修します。3年間で基本領域の到達基準を満たすことが最低限必要ですが、本プログラムでは3年間の組み合わせは研修目標に合わせて構成することが可能で、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を並行して行うことが可能です。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15. 研修施設群内でなんらかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は日本専門医機構内科領域研修委員会に相談いたします

慶應義塾大学内科専門研修 プログラム 指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が慶應義塾大学病院研修委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や慶應義塾大学医学部専修医研修センター、研修委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴提出数」に示すとおりで、研修委員会、専修医研修センターと協力して進めていきます。
- 担当指導医は、研修委員会、専修医研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、研修委員会、専修医研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、研修委員会、専修医研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、研修委員会、専修医研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻

医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除，修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システムの利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医，研修委員会と専攻医研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき，慶應義塾大学病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて毎年 8 月と 2 月の予定の他に臨時で日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に研修委員会および専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

慶應義塾大学病院給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他
特になし。

慶應内科専門研修コースの一例

慶應内科専門研修コース								
後期研修	内科全科ローテートコース							
内科専門研修 (新内科専門医制度)	1年目(D3) 慶應	呼吸器 7w	循環器 7w	消化器 7w	腎臓内分泌 代謝 7w	神経 7w	血液 7w	リウマチ 7w
	1年目(D3)でJMECCを受講							
	2年目(D4) 関連	連携施設A(内科全般および専門性を加味した研修)						
		内科専門医取得の為病歴提出						
	3年目(D5) 関連	連携施設B(内科全般および専門性を加味した研修)						
		内科専門医取得の為筆記試験						
参考								
慶應内科 専修医4年目	D6 慶應	慶應義塾大学病院 各内科所属						

1年目は連携施設で外来診療を週1日行う
大学院入学の場合および専門科決定の場合は研修内容について相談
安全対策・感染対策セミナーはそれぞれ最低年2回の受講、CPCの受講は必須

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型・協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・永寿総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室等が整備されています。 ・病院近傍に病院契約保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の総医師数は2016年4月において100名を超え、内科を含めた院内指導医は68名在籍しています。内科専門医制度認定基準を満たす内科指導医は16名の在籍です(旧制度における内科指導医を含めると22名在籍しております)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に各複数回開催しております。専攻医には受講を義務付けており、そのための時間的余裕も与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し(2014年度実績6回、15年度5回の予定)、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2015年度、16年度実績 地域医療連携カンファレンス年3回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。”
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計5演題以上の学会発表を行っております(2014年度実績5演題、2015年度実績5演題)。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>白井俊孝【内科専攻医へのメッセージ】永寿総合病院は、交通の要衝である上野駅から徒歩5-6分圏内の好立地にあり、慶應大学医学部中核関連病院として優秀なスタッフを有し、多くの研修医や専修医(専攻医)を受け入れてきました。年間約4000台の救急車を受け入れ、台東区の基幹病院として地域医療に貢献しております。日本内科学会認定医制度教育病院であり、屋根瓦式の研修を基本とし、上級医に気軽に相談できる環境を整え、医療安全にも配慮しながら質の高い臨床研修を目指しております。専門性の高い疾患の診療に従事しながら、主担当医として現場で医療を実践していくことが可能です。内科専門医をめざして、効果的に研修を行うことができることはもちろんですが、病院勤務で疲弊しないように配慮をしております。全人的医療を実践できる幅広い臨床能力を培う場を提供したいと考えております。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名, 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名, 日本内分泌学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本血液学会血液専門医 3 名, 日本神経学会神経内科専門医 2 名, 日本救急医学会救急科専門医 1 名, 日本老年医学会専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 195, 865 名 (年間)、入院患者 10, 973 名 (年間)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本頭痛学会准教育施設 日本老年医学会教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本病理学会研修登録施設

	など
--	----

東京都立大塚病院

<p>認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は19名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長、腎臓内科医長）、ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から2017年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置して臨床研修委員会の下部組織とします。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績：医療安全12回、感染対策2回、医療倫理は2016年度に開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績：医療連携医科講演会5回、救急合同症例検討会2回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC 受講（開催準備中）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（2017-2020年度予定）が対応します。 ・特別連携施設（都立松沢病院、都立神経病院、東京都島嶼等）の研修では、電話やメールでの面談・Web カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績11体、2015年度11体）を行っています。

認定基準【整備基準24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し, 定期的に開催 (2015 年度実績 10 回) しています. ・治験管理室を設置し, 定期的に受託研究審査会を開催 (2015 年度実績 10 回) しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 (2014 年度実績 6, 2015 年度実績 0) を予定しています.
指導責任者	<p>藤木 和彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>都立大塚病院は, 東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院であり, 区西北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い, 必要に応じた可塑性のある, 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.</p> <p>主担当医として, 入院から退院 (初診・入院～退院・通院) まで経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,027 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 213 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設(内科系)	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医准教育施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

	<p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>など</p>
--	--

荻窪病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>・日本内科学会の教育関連病院です。</p> <p>・医局にインターネット環境があり、電子ジャーナル・各種データベースなどへアクセスできます。</p> <p>・労務環境が保障されています。</p> <p>・ハラスメント担当がおり、対応しています。</p> <p>・更衣室・シャワー室・当直室・休憩室が整備されています。</p> <p>・病院近くに保育所があります。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医が 10 名在籍しています。</p> <p>・研修委員会を設置し、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・CPC を年 1 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 4 分野（総合内科、消化器、循環器および救急）を中心に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。</p> <p>・臨床研究に必要な図書室を整備しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>中村 雄二</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>荻窪病院は東京都区西部に位置し、1936 年に設立された中島飛行機付属病院を前身として、杉並区や練馬区の皆様に信頼される病院を目指しています。現在、病床数は 252 床で消化器疾患や循環器疾患、地域医療や救急医療に力を入れております。</p> <p>2011 年 3 月より日本医療機能評価機構認定病院として登録されています。</p>
<p>指導医数</p> <p>(常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 5 名</p> <p>日本肝臓学会専門医 2 名，日本消化器病学会消化器専門医 3 名，</p>

	日本循環器学会循環器専門医 7 名, 日本血液学会血液専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	総外来患者(実施)11,936 名(年間) 総入院患者(実数)8,795 名(年間)
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本循環器科学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会不整脈専門医研修施設 日本大腸肛門病学会関連施設 胸部ステントグラフト、腹部ステントグラフト実施施設 など

北里研究所病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・北里研究所病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(臨床教育センター職員担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, 当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 19 名在籍しています(下記)。 ・研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図ります。また研修施設群合同カンファレンス、地域参加型カンファレンスを定期的に参画します。 ・研修・教育を管理する臨床研修管理室、臨床教育センターがあり、その事務局が設置されています。

	<p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 各2回開催）</p> <p>・CPC を定期的開催（2015年度実績 5回）</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、アレルギー、感染症、救急、膠原病、血液内科は標榜していないものの、実際の臨床ではほぼ全て分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績なし、内科系学会 43 演題うち 10 演題が研修医）を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>鈴木雄介</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北里研究所病院は総合病院であり、内科系も多くの専門科を有しています。救急医療を含めた幅広い疾患の症例をそれぞれの専門家の指導の下に経験することができます。腫瘍性疾患、感染症、救急疾患の症例数も豊富です。同時に地域に密着した病院でもあり近隣の住民との関係も深く、また総合内科を診療科として持っており、連携施設としてバイアスの少ない一般的な疾患のプライマリーケアも研修可能です。</p>
<p>指導医数</p> <p>(常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 6 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、</p> <p>日本リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 144203 名（2014 年度） 入院患者 2544 名（2014 年度）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設</p> <p>(内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p>

	<p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定関連施設</p> <p>など</p>
--	---

立川共済病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・立川病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が立川病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 15 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 臨床集談会 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2016 年度実績 3 演題）を行っています。2014 年度の内科系学会での発表総数は 34 件でした。</p>

4)学術活動の環境	
指導責任者	<p>内科専攻医研修委員会委員長：黄 英文</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は東京都北多摩西部二次医療圏最大規模の総合病院で、「大学病院に勝るとも劣らない医療水準」を目指しています。あらゆる診療科を有し、周産期母子医療センターから認知症疾患医療センターまで、人の一生に関わるトータルケアを実践している当院は、「赤ちゃんからお年寄りまで」をモットーにしています。慶應義塾大学内科の伝統を受け継ぎ、全人的医療を実現するべく、あらゆる疾患に対応できるように、研修医のみならずスタッフ医師も日々学んでいく姿勢を大事にしています。内科スタッフが協力して一人の患者さんを診療する風通しの良い体制を誇りとしています。特に得意としている疾患は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経内科： 脳卒中、認知症（東京都認知症疾患医療センター）、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症 ・循環器内科： 急性心筋梗塞や狭心症のカテーテル治療、糖尿病患者等の虚血性心疾患スクリーニング、不整脈 ・消化器内科： 大腸ポリープ（切除）、炎症性腸疾患、肝臓病 ・腎臓内科： CKD、検尿異常から末期腎不全まで ・糖尿病科： 糖尿病、糖尿病合併妊娠 ・血液内科： 悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫、白血球増多、血小板減少 ・呼吸器内科： 肺がん、肺炎、喘息・COPD、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症、睡眠時無呼吸症候群
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 7 名，日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本アレルギー学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	内科全体で、外来患者 4,515 名（1ヶ月平均）、新入院患者 170 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院に指定されており、急性期医療だけでなく、北多摩西部保健医療圏の伝統と実績と信頼のある中核病院として、地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます。東京都の委託事業として、脳卒中医療連携推進協議会（事務局）、地域拠点型認知症疾患医療センター、糖尿病医療連携協議会（事務局）で地域連携事業で主導的役割を果たしています。周産期母子医療センター、MPU(精神科身体合併症病棟)も設置されており、産科、小児科、精神神経科関連の医療連携も多数経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p>

	<p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本血液学会認定研修施設</p> <p>日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>ほか</p>
--	---

東京医療センター

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院であり、毎年マッチング上位で 30 名の初期研修医採用実績がある。</p> <p>・図書室（医学情報センター）に蔵書数単行本 4,092 冊、製本 33,188 冊、継続雑誌 301 タイトルとインターネット環境を有し、医中誌、メディカルオンライン、ProQuest など各種文献検索サービスの契約により効率的かつ適切な文献検索の研修が可能である。</p> <p>・国立病院機構専修医であり、期間限定常勤職員として給与・賞与の対象となる。多くの場合敷地内に周囲地域より安価な専攻医寮や駐車場が確保され、通勤手当、超過勤務手当も対象で、有給休暇、社会保険、出張もある。</p> <p>・研修プログラム周辺の環境として、専攻医には、研修期間中労働基準法および医療法を遵守したうえで、心身ともに健康な状態で研修を行える環境が提供される。</p> <p>・以下のさまざまな委員会・ワーキング等を設置し、よりよい研修環境の整備を図っている：「心の健康づくりスタッフ」によるメンタルストレス対策、ハラスメント委員会：パワハラ、セクハラ委員会の設置、ワークライフバランス向上ワーキング：出産・子育て・介護相談窓口による支援、病院内に女性授乳室及び病院敷地内に院内保育園「ひまわり」を完備等。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・内科指導医が 39 名在籍している（詳細は以下）。</p> <p>・当院が連携施設となる 13 施設からの基幹プログラムに対応する研修委員会を設置している。委員は委員長を含め各施設に 1～3 名指名され、基幹施設に設置されている研修委員会との十分な連携を図る。</p> <p>・各種研修会実績は以下の通りであり、多数の診療科・職種横断的なイベントが通年行われている：医療倫理講習会 年 1 回、医療安全講習会・研修会 年 2 回、感染対策・ICT 講習会 年 2</p>

	<p>回、研修施設群合同カンファレンス、ピットフォールカンファレンス 7回、キャンサーボード 12回、「医療を考える」市民公開セミナー 1回、AHA BLS コース 12回、AHA ACLS コース 11回、剖検症例検討会 5回、地域医療カンファレンス 10回</p> <p>また JMECC 自主開催に向けて準備中であり、平成 28 年度より定期開催を予定している（JMECC ディレクター資格取得予定者 1 名、インストラクター資格 2 名）。</p> <p>こうした講習会は専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）すべてで定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 7 演題）をしている。 ・各サブスペシャリティにおいても内科系各学会において数多くの学会発表を行っている（2014 年度実績 内科全診療科計 100 演題）。 ・臨床研究に必要な図書室（前述の医学情報センター）、臨床研究センターなどを整備・運営している。
<p>指導責任者</p>	<p>矢野 尊啓</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構東京医療センターは、東京都西南部に位置する 780 床を有する高度総合医療施設であり、地域の急性期中核医療機関である。全国 144 施設におよぶ国立病院機構の施設の中でも指導的な役割を担うフラッグシップ・ホスピタルと位置づけられる一方、慶應義塾大学医学部の最大の関連施設として多数の医師を大学に送り込み、また大学から受け入れてきた。現在地域医療支援病院、三次救急指定病院、災害医療拠点病院、エイズ治療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院として、コモン・ディゼーズから特殊疾患まで、総合内科からすべての内科サブスペシャリティまで、在宅医療から先端医療まで非常に幅広い内科研修が受けられる施設である。連携施設としては、270 床におよぶ東京医療センター内科病床を利用して内科全分野にわたる豊かな症例を経験することにより、基幹プログラム専攻医が総合内科専門医を取得できるよう援助する。当院の初期研修システムは非常に良く機能し、指導医、後期研修医（専攻医）、初期研修医の屋根瓦式指導体制もほぼ確立されている。医師のみならず、看護師や薬剤師、理学療法士など他のすべての医療職との協働もきわめて好ましい雰囲気の中で行われており、多職種で行われる医療を学ぶ間に、ロールモデルにも多数出会えると自負している。専攻医の皆様が、当院での研修中私たちとともに東京医療センターの基本理念「患者とともに健康を考える医療を实践」し、楽しく働き、内科医としてのキャリアを確立できるよう期待している。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 39 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名</p> <p>日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本老年医学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 124,735 名、内科入院患者 7,307 名（いずれも 2014 年度 1 年間）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。</p>

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、地域連携を通じた在宅医療をはじめ、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などを幅広く経験できる。地域包括ケアやアドバンス・ケア・プランニングについても十分な学習機会を提供できる。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本感染症学会研修施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設（内科系）</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度指定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会研修施設</p> <p>日本循環器学会専門医研修施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設</p> <p>日本神経学会教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本内科学会教育病院</p> <p>日本脳卒中学会研修教育病院</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導施設</p> <p>日本アレルギー学会教育施設</p> <p>日本がん治療認定機構研修施設</p> <p>日本緩和医療学会研修施設</p> <p>日本救急医学会専門医、指導医指定施設</p> <p>日本心血管インターベンション学会研修関連施設</p> <p>日本栄養療法推進協議会栄養サポート稼働施設（NST）</p> <p>など</p>

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心の健康づくり相談室メンタルヘルスサポート）があります。 ・ハラスメント対策が整備されています。 ・女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 29 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門医研修管理委員会を設置します。その事務局として教育研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 11 回）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 9 回）し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会（2015 年度実績 8 回）を定期的開催し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的猶予を与えます。 ・プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2015 年度受講者 1 名 ※2017 年 2 月院内開催予定）を義務付け，そのための時間的猶予を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 15 体，2014 年度 16 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，臨床研究センターなどを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し，定期的開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ・臨床研究倫理審査委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 8 演題）をしています。

指導責任者	<p>星野晴彦</p> <p>【内科専門医へのメッセージ】</p> <p>東京都済生会中央病院は、東京都区中央部医療圏の中心的な急性期病院です。三次救急も行う救命センターもありますし、病診連携を生かした地域連携病院として、広汎な大学病院では得られない豊富な症例を経験することができます。内科系プログラムは20年以上の歴史があり、すべての診療領域の内科研修を行い総合的な内科医として全人的医療を行える基礎の上に、さらに Subspecialty の専門医を目指す研修を行ってきました。現在では、このプログラムで研修された卒業生が、全国各地で専門医として、また地域診療を支える総合内科医として活躍しています。内科系研修は各診療科の主治医とマンツーマンの組み合わせで受持医として担当し、専修医研修医が同じ病棟で常に交流しながら教えあうことで研修を行ってきました。指導する主治医は内科指導医、各 Subspecialty の専門医、臨床指導医であり、また、東京都済生会中央病院のプログラムを経験した医師も多くいます。大学や研究施設とは異なり、臨床に特化した研修を行ってきています。さらにプログラムの特徴のひとつとして、生活保護を必要とする患者さんが入院する病棟（以前の民生病棟）で総合診療内科ローテーションを行っています。内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように研修します。入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 7 名，</p> <p>日本糖尿病学会専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 3 名，</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 7 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，</p> <p>日本リウマチ学会専門医 0 名，日本感染症学会専門医 0 名，日本肝臓学会肝臓病専門医 4 名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 6 名，ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 12,573 名（1ヶ月平均） 入院患者 552 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定内科専門医教育認定病院</p> <p>日本血液学会認定研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本消化器病学会認定教育施設</p> <p>日本集中治療医学会専門医研修施設</p>

	<p>日本透析医学会専門医教育認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本神経学会専門医教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本認知症学会専門医教育施設</p> <p>日本カプセル内視鏡学会指導施設</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導施設</p> <p>日本病院総合診療医学会認定施設</p> <p>日本臨床検査医学会認定研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本救急医学会指導医指定施設</p> <p>など</p>
--	--

日野市立病院

<p>認定基準【整備基準 23】1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日野市立病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が日野市立病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備され
-----------------------------------	--

	<p>ています。</p> <p>・病院と連携している暁愛児園（保育園）が近傍にあり、利用可能です。</p>
<p>認定基準【整備基準 23】2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医が9名在籍しています（下記）。</p> <p>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績 医療倫理4回（複数回開催）、医療安全9回（各複数回開催）、感染対策6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・CPC を定期的開催（2014年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンス：多摩地区呼吸器合同カンファレンス（毎週金曜日）、日野市医師会・腎臓病勉強会（年1回、計11回）、日野市立病院・多摩総合医療センター合同糖尿病勉強会（2015年2月開始）、慶應多摩内科医会（年1回、計24回）、多摩腎臓高血圧研究会（年1回、計17回）、日野市地域医療連携協議会（3ヶ月に1回）などを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準【整備基準 23/31】3) 診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準【整備基準 23】4) 学術活動の環境</p>	<p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績3演題）。日本腎臓学会、日本内分泌学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会、日本透析医学会、日本臨床血液学会などにも実績があります（http://hospital.city.hino.tokyo.jp/recruit/latter_resident/index.html）。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>村上円人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日野市立病院は日野市民18万人を支える急性期病院であり、腎臓内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科の専門的医療を中心に内科のすべての分野の診療を地域の施設と連携して行っております。腎臓内科に関しては、腎生検、腎病理カンファレンス、血液浄化法のすべてを経験する環境が整っており専門的な指導ができます。呼吸器内科は肺癌、間質性肺疾患などに関して地域で有数の症例を有しており専門家が指導できます。消化器内科に関しては、消化管や肝胆膵疾患全般、特に内視鏡による専門的治療、炎症性腸疾患、癌化学療法などに取り組んでおります。循環器内科は、カテーテル治療、ペースメーカー植え込みなど、虚血性心疾患および不整脈の急性期治療を行っております。</p> <p>2008年より卒後3年目の内科医研修を受け入れ、全国から内科専攻医が継続して赴任し、</p>

	<p>当院の内科研修中と研修歴のある医師を含めると 2015 年度は総数 7 名が勤務しております。</p> <p>日野市内の内科のすべての分野の患者が当院に来院しますので幅広い範囲の症例の経験ができ、臓器に特化しない幅広い内科全般の研修をする環境が整っております。慶應義塾大学病院、杏林大学病院から、血液内科、神経内科、リウマチ内科、糖尿病の専門医が外来パートに来ており常勤医不在の分野の研修も担保しております。</p> <p>また主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。</p>
指導医数(常勤医)	<p>日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 2 名，日本循環器学会専門医 6 名，</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会専門医 2 名，</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名、</p> <p>日本透析医学会専門医 2 名、日本高血圧学会指導医 1 名 ほか</p>
外来・入院患者数	2014 年度（1 ヶ月平均）： 外来患者 5,307 名、救急車受け入れ 112 名、入院患者 175 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。 日野市地域医療連携協議会では、かかりつけ医、日野市立病院の主治医、地域介護職員などが参加し、看取りの医療、病診連携についての幅広い研修ができます。 災害拠点病院であり日野医師会や南多摩地区との合同災害訓練に参加し地域の災害医療について研修できます（年 1 回、2015 年 10 月 25 日、2016 年 12 月 4 日）
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会関連施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p>

	<p>日本大腸肛門病学会専門医修練施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本救急医学会専門医指定施設</p>
--	---

練馬総合病院

<p>認定基準【整備基準 23】1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・練馬総合病院病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
<p>認定基準【整備基準 23】2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績 医療倫理 1回（複数回開催），医療安全2回（各複数回開催），感染対策2回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 病診，病病連携カンファレンス1回）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準【整備基準 23/31】3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌・代謝・呼吸器および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準【整備基準 23】4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表（2015年度実績1演題）を予定しています。

指導責任者	柳川達生 【内科専攻医へのメッセージ】 練馬総合病院糖尿病センターを中心として、糖尿病診療は地域の中核的存在で、専門的知識のみならずチーム医療としても研修できます、循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などの疾患を診療できます。また救急専門医の入職により救急医療も充実して診療することができます。専門医療のみではなく、総合内科医としての役割を果たせるよう指導していきます。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 8名、日本内科学会総合内科専門医 7名 日本消化器病学会消化器専門医 1名、日本循環器学会循環器専門医 2名、 日本内分泌学会専門医 1名、日本糖尿病学会専門医 4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、肝臓病学会専門医 1名 日本感染症学会専門医 1名、日本救急医学会救急科専門医 1名
外来・入院患者数	内科外来 3366名(1か月平均)、内科入院 159名(1か月平均)
経験できる疾患群	総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝・呼吸器および救急の分野は確実に経験できます。神経は脳血管障害は経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本感染症学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本東洋医学会研修施設

川崎市立井田病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 23】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
1) 専攻医の環境	・非常勤医師として労務環境が保障されています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署（総務局担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が15名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016年度実績 医療倫理 1回、医療安全2回、感染対策4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2016年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2016年度実績 病診、病病連携カンファレンス2回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を毎年開催しており、2016年度は1回行いました。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績6演題）を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>鈴木貴博（リウマチ膠原病・痛風センター所長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>川崎市立井田病院は、東急東横線の間にある日吉駅から徒歩圏内というアクセスに恵まれた環境にあります。がん拠点病院として健診から緩和医療までシームレスな医療を提供する一方、急性期病院として二次救急を行っています。内科の年間入院症例数は4018例で、血液内科・リウマチ内科の専門医も在籍し十分な研修が受けられます。各専門医の指導の下でローテートしつつ、入院順番で総合内科症例も受け持ちます。受け持った患者さんを自分の外来で継続的に診療できます。</p> <p>総合内科の一環として緩和医療を学ぶ場合、緩和ケア病棟だけでなく、在宅医療も学べます。24時間体制で、入院・在宅の患者さんに対応する体制を整えています。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医15名、日本内科学会総合内科専門医12名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医2名、日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医3名、日本肝臓学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会専門医2名、日本血液学会血液専門医1名、日本リウマチ学会専門医3名、日本感染症学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医1名、日本緩和医療学会暫定指導医2名、ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 13,666 名 (1ヶ月平均) 入院患者 540 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本在宅医学会認定研修施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 など

川崎市立川崎病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
【整備基準 23】	・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されている

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市非常勤職員常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（川崎市総務部職員担当）がある。 ・ハラスメントに対しては職員衛生委員会が病院に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 21 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る（予定）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 13 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 病診、病病連携カンファレンス 4 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、リウマチ膠原病、アレルギー、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 14 演題以上の学会発表（2015 年度実績 10 演題）を予定している</p>
<p>指導責任者</p>	<p>岡野 裕</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>川崎市内南部医療圏の中心的な急性期病院である川崎市立川崎病院は、地域の病診・病病連携の中核であり、コモンディーズの経験はもとより、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。</p> <p>救急救命センターがあり、3 次救急の診療および集中治療を要する内科系疾患の診療を経験できます。</p> <p>研究会、講演会・講習会、カンファレンスおよび学会など、知識を習得する機会が豊富にあります。臨床研究を支援する部署があり、院外研究会や学会での発表、論文の執筆を通して、</p>

	リサーチマインドの素養の習得と発表能力を高めることができます。
指導医数 (常勤医)	1. 認定内科医 (21人)、2. 総合内科専門医 (12人)、3. 消化器病学会 (4人)、4. 肝臓学会 (1人)、5. 循環器学会 (3人)、6. 内分泌学会 (1人)、7. 腎臓学会 (0人)、8. 糖尿病学会 (2人)、9. 呼吸器学会 (3人)、10. 血液学会 (1人)、11. 神経学会 (1人)、12. アレルギー学会 (1人)、13. リウマチ学会 (4人)、14. 感染症学会 (2人)、15. 老年医学会 (0人)、16. 救急医学会 (3人)
外来・入院患者数	外来延べ患者約 1,460 名 (1日平均)、在入院患者 525 名 (1日平均)、新入院患者数 1,164 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本リウマチ学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本アレルギー学会認定施設 日本神経学会准教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本救急医学会認定指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本腎臓学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

けいゆう病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・けいゆう病院後期研修医(常勤)として労務環境が保障されています。 ・年一回ストレスチェックを行い、衛生管理委員会および庶務課で対処する体制があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 17 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2018 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催(2015 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し(2015 年度実績 けいゆう病院横浜中央地区病診連携会 2 回、地域連携症例検討会 2 回、みなとみらい肝炎勉強会 2 回、糖尿病内科病診連携の会 1 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、内分泌、代謝、血液、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 3 演題以上の学会発表(2015 年度実績 3 演題)をしています。各専門科の学会でも年間数回の学会発表を行っています。
指導責任者	<p>永見圭一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横浜市みなとみらい地区にある 410 床の総合病院です。一内科制をとっており、各専門科をローテーションするのではなく複数科の症例を同時に主治医として担当することが当院の研修の最大の特徴です。専門医のサポートを得ながら診断と治療を行い、さらに自身の外来でフォローすることもできます。地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験し、患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行える内科医になってもらうことを目指しています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 455 名(1 日平均) 入院患者 146 名(1 日平均)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本透析医学会教育関連施設 など

日本鋼管病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されている ・常勤医師として雇用する。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメントに対して対応部署が設置されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。当直保育も確保している。
認定基準	指導医は10名在籍している（下記）。・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

<p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 医療倫理 4 回（複数回開催）、医療安全 4 回（各複数回開催）、感染対策 14 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・CPC を定期的開催（2014 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績 病診、病病連携カンファレンス 1 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、リウマチ膠原病、アレルギー、感染症、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題報告）。そのほか各主要学会総会等で 14 演題臨床研究報告を行い、今後は専修医への指導の下、研修医が報告できるようにしてゆく予定。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>宮尾直樹【内科専攻医へのメッセージ】日本鋼管病院は昭和 12 年の創立以来、川崎市南部地区の地域中核病院として一貫して地域医療の発展と高度医療の提供に貢献して参りました。地域に根差した医療を心がけ、消化器・肝臓病センターでは上部消化管内視鏡検査 5,877 件/年間、下部消化管内視鏡 1,452 件/年間、そのうち ESD 39 件、EMR 259 件と内視鏡治療も積極的に行って地域の消化器関連の治療ではトップクラスです。COPD/SAS センターでは、神奈川県ではもとより、日本全国でも COPD 患者のリハビリ管理では評判が高く、全国から患者が通院されるまでになっています。そのほか、透析センター、糖尿病センターでは、専門性の高い教育と管理が提供され、専修医の教育環境も整っており、サブスペシャリティの研修が可能です。専修医 1 年目は各内科を研修し、2 年目からは総合内科を研修し、3 年目はサブスペシャリティを目指した研修ができるようにカリキュラムを作っています。総合内科専門医に必要な症例経験と学術的な考察力の育成を行い、最終的には臨床研究を報告することができるまでの研修を行います。中規模病院ならではの各部門との交流も容易で、働きやすい環境の中、忙しすぎず勉強のできる環境とオン・オフのあるメリハリある時間的余裕を持った 3 年間を提供できると思います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>1. 認定内科医 (18 人)、2. 総合内科専門医 (9 人)、3. 消化器病学会 (5 人)、4. 肝臓学会 (3 人)、5. 循環器学会 (3 人)、6. 内分泌学会 (0 人)、7. 腎臓学会 (1 人)、8. 糖尿病学会 (0 人)、9. 呼吸器学会 (4 人)、10. 血液学会 (0 人)、11. 神経学会 (1 人)、12. アレルギー学会 (0 人)、13. リウマチ学会 (1 人)、14. 感染症学会 (0 人)、15. 老年医学会 (0 人)、16. 救急医学会 (0 人)</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 288,292 名 (2014 年度) 入院患者 290,380 名 (2014 年度)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>

学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本神経学会専門医研修施設</p> <p>日本カプセル内視鏡学会指導施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p>
-----------------	--

平塚市民病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師として採用され、安定した身分保障および労務環境が整えられています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。 ・ ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、週 2 日は 24 時間利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科学会指導医が 12 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 12 回、感染対策 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ CPC を定期的開催（2015）年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 14 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。

【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	また、血液、リウマチ膠原病・アレルギーについても非常勤医師の指導の下、外来入院診療を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	今福 俊夫 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています。 高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。 平成 28 年 5 月に新棟がオープンしました。ゆったりとした外来・病棟や、最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新棟内に設置されました。また 320 列 CT や IVR-CT などの先進機器に加えて、最新鋭のリナックも設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています。 内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており、救急医療に関しては地域の二次救急輪番制の中心病院として高度急性期疾患にも対応できるよう、ER 専門医も配置され指導を受けることが出来ます。 さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 0 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、 日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本老年医学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院 患者数	外来患者 3, 525 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 308 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	高度急性期、急性期医療のほか、回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療、さらには高齢社

診療連携	会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設</p> <p>日本 IVR 学会専門医修練施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本脳神経学会専門医研修施設</p> <p>厚生労働省指定臨床研修病院</p> <p>など</p>

横浜市民病院

認定基準	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市非常勤特別職々員として労務環境が保障されています。 ・職員の健康管理・福利厚生を担当する部署（総務課職員係）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室，シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用が可能です。

<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新基準による指導医が 26 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療安全 11 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2014 年度実績 横浜西部肝炎セミナー 2 回、肺癌読影会 10 回等）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、内分泌、代謝、血液、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 8 演題）をしています。 ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに、英文・和文論文の筆頭著者として執 する機会があり、学術的な指導を受けることができます。 ・臨床試験管理室を設置し、定期的に受託研究審査委員会を開催しています（2014 年度実績 8 演題）。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2014 年度実績 11 回）。 ・利益相反委員会（COI 委員会）を設置し、定期的に開催しています（2015 年度実績 3 回）。
<p>指導責任者</p>	<p>小松 弘一（副病院長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>自他ともに認める高度急性期医療を担っている病院で、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院に指定されているなど、日常よく遭遇する common disease から高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます。質の高い内科医となるだけでなく、医療安全を重視し、地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験して患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行うことができる内科医を育成することを目指しています。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 26 名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 15 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 7 名</p> <p>日本肝臓学会肝臓専門医 2 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 3 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名</p> <p>日本血液学会血液専門医 3 名</p>

	<p>日本神経学会神経内科専門医 3 名</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医 4 名</p> <p>日本透析医学会透析専門医 1 名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名</p> <p>日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名</p> <p>日本感染症学会感染症専門医 2 名</p> <p>日本緩和医療学会緩和専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 9,399 名 (1 ヶ月平均) 新入院患 596 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本感染症学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓病学会研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度専門医修練施設</p> <p>日本血液学会認定研修施設</p> <p>日本骨髄移植推進財団認定施設</p> <p>日本大腸肛門病学会専門医修練施設</p> <p>日本神経学会専門医研修施設</p>

	<p>日本神経学会専門医制度認定準教育施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>ステントグラフト実施施設</p> <p>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設</p>
--	--

社会福祉法人 恩賜財団 済生会 横浜市東部病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 済生会横浜市東部病院 常勤医師として勤務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事室）がある。 ・ ハラスメント委員会が済生会横浜市東部病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地より徒歩 10 分の院内保育所が利用できる。 病児保育、病後児保育は院内で対応している。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 27 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 51 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症、救急血液、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 専門研修に必要な剖検(2015 年実績 10 体)を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 9 演題)をしている。内科学会関東地方会の幹事病院である。 内科学会以外の内科専門分野の学会活動も活発で、海外の学会を含め、年間 100 題以上発表している。専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。
指導責任者	比嘉真理子 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会横浜市東部病院は、横浜市中核病院であり、救命救急センターなどを中心とした急性期医療や高度専門医療を中心に提供する病院です。救命救急センターと総合診療センターでは内科医が経験すべき高度な救急疾患から common disease に至るまで豊富な症例を診療しています。地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療にはサイバーナイフやロボット手術などの先進的な医療機器を備えて最新の医療を行っています。二人主治医制や連携パス導入などの病診連携にも積極的に取り組み地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは、初期臨床研修修了後に横浜市立大学病院の内科系診療科と当院が協力・連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本肝臓病学会専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名。
外来・入院 患者数	外来患者 8,475 名(1ヶ月平均) 入院患者 722 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療も経験できる。 特に、当院から 5Km 横浜寄りに位置する済生会神奈川県病院は、慢性期医療・緩和ケア・在宅療法を主に担っている。当院は済生会神奈川県病院 内科と医局の一体化を実践しており、人事交流を行っている。済生会神奈川県病院と専攻医の研修において在宅医療・高齢者医療・緩和ケアにおいて連携を取っていく。当院は、病診連携・病病連携についても病院全体で取り組んでおり、専攻医の地域医療連携研修の経験ができる。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設

	<p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本神経学会専門医研修施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本感染症学会連携研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設</p> <p>ステントグラフト実施施設</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本リウマチ学会認定教育施設</p> <p>日本アレルギー学会認定準教育施設</p> <p>日本救急医学会指導医指定施設</p> <p>など</p>
--	---

JCHO 埼玉メディカルセンター

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・JCHO 埼玉メディカルセンターの常勤医師として労務環境が保障されています。 ・セクシャルハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：副院長 吉田武史 プログラム管理者：

<p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>内科部長) を設置し、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス：JCHO 埼玉メディカルセンター・さいたま市立病院・浦和医師会合同カンファレンス（年 3 回）、浦和医師会内科医会消化器カンファレンス（年 1~2 回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 11 体、2013 年度 10 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行う（2014 年度実績 10 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行う IRB 委員会を開催（2014 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>吉田武史</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>JCHO 埼玉メディカルセンターは、首都圏の政令指定都市であるさいたま市の基幹病院です。さいたま市は人口 127 万人の大都市ですが、390 床以上の病院は当院を含め 4 病院しかありません。また当院は、JR 北浦和駅より徒歩 3 分と交通の便がよく外来患者が 1 日 1300 人と多く、common disease からまれな疾患まで、多くの疾患を経験することができます。当院のプログラムでは県内の基幹施設であるさいたま市立病院、国立病院機構埼玉病院、彩の国東大宮メディカルセンターと連携し、いずれも転居せずに 3 年間研修が可能であり、地域医療に貢献できる内科専門医育成を目指します。また慶應大学病院も連携施設に含まれ、高度先進医療や臨床研究、また大学院への進学希望者への推薦などできます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 32,418 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 17,102 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医教育病院</p> <p>日本消化器病学会専門医認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会関連施設</p> <p>日本神経学会専門医教育関連施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p> <p>日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医認定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設</p> <p>など</p>

さいたま市立病院

認定基準	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
【整備基準23】	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市非常勤医師として労働環境が保障されている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント委員会がさいたま市役所に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は17名在籍している（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長）（ともに指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から2017年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017年度予定）を設置する。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的開催（2015年度4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（さいたま市立病院・JCHO 埼玉メディカルセンター合同カンファレンス（年3回）、浦和循環器勉強会（年1回）、臓器保護研究会（年1回）、消化器病診連携勉強会（年1回）、肺癌症例検討会（年1回）、さいたま市神経カンファレンス（年3回）、Neurology Frontier in Saitama（年1回）、さいたま神経生理てんかん研究会（年1回）、浦和医師会合同糖尿病勉強会（年2回）、糖尿病プライマリーケア研究会（年2回）、さいたま血液勉強会（年2回）、さいたま市リウマチ合同カンファレンス（年4回））を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2016年度実績2回：受講者12名）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017年度予定）が対応する。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015年度22体、2014年度実績27体、2013年度13体）を行っている。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、コンピュータ室などを準備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2015年度実績10回） ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2015年度実績6回）している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表（2015年度実績5演題）をしている。
<p>指導責任者</p>	<p>小山 卓史</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>さいたま市立病院は、埼玉県さいたま医療圏の中心的な急性期病院であり、同じくさいたま医療圏の中心的な病院であるさいたま赤十字病院、JCHO埼玉メディカルセンター、さいたま</p>

	市民医療センター、あるいは同じ県内で隣接医療圏の中心的な病院である独立行政法人国立病院機構埼玉病院や北里大学メディカルセンターと病院群を組むことにより連携し、相互補完しながら、質の高いきめ細かな指導を行ってゆきます。これら病院は、距離的にも適度な位置関係にあり、合同カンファレンスを行う上での利便性はもちろんのこと、専攻医は研修期間の3年間を通して転居することなく、これらいずれの病院でも研修が可能です。加えて、栃木県の医療過疎地域の連携病院である足利赤十字病院での研修も可能で、地域の医療を一手にささえる総合病院の医療を経験し、研修することもできる。さらに、慶応義塾大学病院が連携病院に含まれ、希望者はsubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医17名、日本内科学会総合内科専門医11名、日本消化器学会消化器専門医4名、 日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本リウマチ学会専門医1名、日本感染症学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者 977名（1日平均） 入院患者 458名（1日平均）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会教育研修施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会研修関連施設 日本消化器学会認定施設 日本消化器学会内視鏡指導施設 日本神経学会準教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本感染症学会研修施設

国立病院機構埼玉病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 23】	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立病院機構埼玉病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課長担当）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 10 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・基幹施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催（2018 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス：朝霞地区医師会合同カンファレンス（2015 年度実績 8 回），朝霞地区医師会循環器勉強会（2015 年度実績 5 回），朝霞地区医師会画像診断研究会（2015 年度実績 15 回），埼玉県南西部消防本部救急症例検討会（2015 年度実績 3 回）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC（2016 年度実績 1 回）受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度設置予定）が対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 11 体，2014 年度実績 11 体，2013 年度実績 14 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究部が設置されており、リサーチマインドを涵養する研究環境が整っています ・臨床研究に必要な図書室、写真室、図書室，インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的開催（2015 年度実績 10 回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的受託研究審査会を開催（2015 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題の学会発表（2015 年度実績）をしています。 ・国立病院総合医学会が毎年開催されており、日常の臨床の成果等を発表する機会があります

指導責任者	鈴木 雅裕 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構埼玉病院は、埼玉県南西部医療圏の中心的な急性期病院です。東京都との県境に位置（池袋から10km）するため、埼玉県の近隣医療圏の病院（さいたま市立病院・JCHO 埼玉メディカルセンター）と都内の病院（慶應義塾大学病院・日本大学板橋病院・練馬総合病院・国立病院機構東京医療センター・国立病院機構災害医療センター）と連携して内科専門研修を行います。農村部の急性期病院である佐野厚生病院、慢性期病棟・地域包括ケア病棟のケアミックス型の病院である国立病院機構宇都宮病院とも連携し様々な経験を積むことができます。これらの病院での研修を通じて、多様な状況下で内科医としての能力を発揮する事のできる、地域医療にも貢献できる内科専門医育成を目指します。 主担当医として、患者の疾患の診断・治療に携わるのはもちろん、高齢者社会に向かいますす必要とされる患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名, 日本内科学会総合内科専門医 8 名, 日本消化器病学会消化器専門医 2 名, 日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 2 名
外来・入院患者数	外来患者 21,478.8 名 (1ヶ月平均) 入院患者 9,821.0 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育関連施設 日本老年医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定病院 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・東京歯科大学市川総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課）があります。 ・ハラスメント防止対策委員会が大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 20 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（内科部長）、プログラム管理者（内科准教授）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績 12 回）し、専攻医に 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（市川リレーションシップカンファレンス（地域医師会員をはじめとする地域医療従事者を対象）：2016 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度開催実績 2 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 20 体、2015 年度 13 体）を行っています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2016 年度実績 6 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2016 年度実績 6 回）しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 6 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>寺嶋 毅 【内科専攻医へのメッセージ】 東京歯科大学市川総合病院は、千葉県東葛南部医療圏の中心的な急性期病院であり、東葛南部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 9694 名（1ヶ月平均） 入院患者 1098 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会教育関連施設 など

足利赤十字病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
【整備基準 23】	また併せて、慶應義塾大学病院、獨協医科大学病院、群馬大学病院、日本医科大学病院の協力型臨床研修指定病院となっています。初期研修医は協力型の研修医を含め常時 20 名程在籍しています。
1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・医局・図書室にインターネット環境があり、電子ジャーナル・各種データベースなどへアクセスできます。 ・足利赤十字病院の後期臨床研修医（専攻医）として労務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに対処する内・外の対応窓口があります。（無料） ・ハラスメント防止委員会が整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室・女性医師専用ラウンジ（医局内）が整備されています。 ・病院内に職員保育所があり、病児保育補助も行っています。

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 14 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、副統括責任者（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2016 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度 1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 6 演題）をしています。 ・各専門科においても内科系各学会において数多くの学会発表を行っております（2015 年度実績 6 演題）。英語論文 5 編。 ・臨床研究に必要な図書室、臨床研究推進センターなどを整備しています。
<p>指導責任者</p>	<p>小松本 悟 院長（神経内科）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>足利赤十字病院は、栃木県県南部に位置し、両毛医療圏（人口約 80 万人）における地域中核病院であります。平成 23 年 7 月より一般病棟全室個室、最新設備の高度先端医療機器を備えた新しい病院が稼働しており、稼働率は常に 93%以上を維持しております。3 次救命救急センターを整備し、急性期疾患に対してチーム医療で迅速に対応し、高度で質の高い安全な医療を提供しています。また、地域医療支援病院として地域医療機関との密接な病診連携を縦横に結び、紹介率も約 74%以上、平均在院日数も 15 日前後となり、地域の医療機関の機能分担と連携の促進がなされています。このような環境の中で、チーム医療による臨床研修を日々行っており、各科の診療部長の協力と教育への熱意によりプログラムが運行されています。専攻医の要望・改善要項についても聞き入れる機会を設けて、指導医へフィードバックしています。</p> <p>更に、当院は平成 27 年 2 月には医療施設の国際的な認証機関である JCI（Joint Commission International）の認証を、赤十字病院として初めて、国内では 9 番目に取得し、医療の安全、質の向上にも積極的に取り組んでおります。このように、</p>

	専攻医の臨床研修を行う良い環境を整えております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医・認定内科医 12 名, 日本内科学会総合内科専門医 7 名, 日本肝臓学会専門医 2 名, 日本消化器病学会消化器専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本内分泌学会専門医 0 名, 日本腎臓学会専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 0 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 0 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 0 名, 日本リウマチ学会専門医 1 名, 日本感染症学会専門医 0 名, 日本救急医学会救急科専門医 1 名, ほか。内分泌、糖尿病、血液は非常勤指導医がおります。
外来・入院患者数	外来患者 24,909 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 1,117 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育病院 日本透析医学会教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本腎臓財団実習指定病院 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録参加認定施設 日本気管食道科学会研修施設 (咽喉系) 日本麻酔科学会認定病院 日本 I V R 学会修練施設 日本救急医学会専門医指定施設

	<p>日本病理学会研修認定施設 B</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設</p> <p>日本臨床細胞学会教育研修施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本リハビリテーション医学会研修施設</p> <p>日本医療機能評価機構認定病院 Ver6.0</p> <p>日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定施設</p> <p>日本認知症学会教育施設認定施設</p> <p>日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価 Ver3.0</p> <p>日本脈管学会専門医制度研修関連施設</p> <p>日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設</p> <p>など</p>
--	---

済生会宇都宮病院エラー！リンクが正しくありません。

佐野厚生病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・佐野厚生総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が佐野厚生総合病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績 医療倫理 1回（複数回開催）、医療安全2回（各複数回開催）、感染対策2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余

	<p>裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績 病診，病病連携カンファレンス1回）を定期的 に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器および救急の 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 4 演題） を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>井上 卓</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から，慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼 吸器疾患に関しては，感染症，肺癌など腫瘍性疾患，間質性肺疾患，気管支喘息などのアレルギー 性疾患など幅広い疾患に関して，それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみ ではなく，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内 科専門医をめざせるように教育に力をいれています。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 7 名，日本内科学会総合内科専門医 5 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名，</p> <p>日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，</p> <p>日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本感染症学会専門医 1 名，</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 1 名，ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 6700 名（1 ヶ月平均） 入院患者 4500 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く 経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技 能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く 経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医 療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験 できます。ケアミックス型病院であり療養病床、回復期リハビリテーション病棟での研修、退院 調整なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設</p> <p>（内科系）</p>	<p>厚生労働省臨床研修指定病院</p> <p>日本内科学会教育病院</p> <p>日本循環器学会指定循環器研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p>

	<p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会認定研修施設</p> <p>日本消化器病学会認定医制度認定施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本緩和医学会認定研修施設</p> <p>日本病理学会認定病院</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設</p> <p>地域がん診療連携拠点病院</p> <p>など</p>
--	---

静岡赤十字病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</p> <p>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</p> <p>・静岡赤十字病院常勤あるいは非常勤医師として勤務環境が保障されています。</p> <p>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</p> <p>・ハラスメント委員会が院内に整備されています。</p> <p>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</p> <p>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医は17名在籍しています。</p> <p>・プログラム管理委員会（2017年度中に設置予定）で、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</p> <p>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会（2016年度に設置予定）があります。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績29回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群内科合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型内科合同カンファレンス（2015 年度実績 40 回程度）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に研修委員会が対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2013 年度 12 体、2014 年度実績 13 体、2015 年度 12 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2015 年度実績 4 回）しています。 ・治験委員会を設置し、定期的で開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 14 演題）をしています。
指導責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・久保田英治 <p>【内科専攻医へのメッセージ】本プログラムは、静岡県静岡市医療圏の急性期病院である静岡赤十字病院を基幹施設として、近隣の連携施設と協力し、将来的に静岡県内だけでなく日本全国で活躍できる「主治医機能」をもった内科専門医の養成を基本理念としています。主治医機能とは、患者の持つ全ての病気を抽出・管理し、それに対して診療責任を持つ医師の役割のことです。主治医機能とは、単に「自分が主治医である」というような想いや感情のみで達成されるものではなく、主治医機能を発揮するために作られた診療方式を常日頃から訓練・実践することにより達成されると考えています。本プログラムでは、主治医機能を発揮するために作られたカルテ記載方式兼診療思考方式である「総合プロブレム方式」を修得することができます。また、本プログラム専門研修施設群での 3 年間の研修で、内科指導医の指導の下、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた研修を通じ、内科学的基本的臨床能力も併せて修得することができます。</p>
<p>指導医数</p> <p>(常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門指導医 1 名、日本内分泌代謝学会指導医 1 名、</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名、</p> <p>日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科指導医 5 名、</p> <p>日本アレルギー学会専門医（小児科）1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本日本感染症学会インフェクションコントロールドクター 1 名、</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか</p>
外来・入院患者数	延外来患者 6836 名、入院患者 256 名（いずれも 2015 年度 1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育準施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本静脈経腸栄養施設認定 NST 稼働施設 など

榊原記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所、病児保育があります。 ● 病院 6 階に専攻医宿舎を完備しており、独身者であれば利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導医が 15 名在籍しています。 ● 循環器内科の研修では CCU、心臓カテーテル検査・治療 (PCI、末梢血管インターベンション)、心臓電気生理検査・治療 (カテーテルアブレーション、植込みデバイス)、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリを研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス (内科カンファレンス、榊原カンファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討会、シネ検討会)、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。

環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績 医療倫理 3回、医療安全 12回、感染対策 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2015年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」（2015年度実績 9回）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015年度実績 1 演題）を行っています。卒後 3～6 年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2015年度実績として約 20 件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。
指導責任者	梅村 純 【内科専攻医へのメッセージ】 榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり、慶應義塾大学の内科専門研修プログラムの連携施設として循環器内科研修を行い、内科専門医の育成を行います。当院は開心術数が日本で唯一年間 1000 件を超えるなど、豊富な症例数を誇っています。指導医は心血管インターベンション、心不全、不整脈（カテーテルアブレーション）、ICD やペースメーカー植え込み、心エコー、画像診断（CT/MRI/核医学）、心臓リハビリなど各領域の専門家がそろっており、循環器診療においてほぼすべての領域をカバーできます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名（予定）、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 21 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,910 名（1ヶ月平均） 入院患者 514 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある循環器領域、10 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な循環器領域の技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設 (三学会：日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会) 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 胸部ステントグラフト実施施設

	<p>日本心血管インターベンション治療学会認定施設</p> <p>日本内科学会認定制度教育特殊施設</p> <p>日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設</p> <p>日本麻酔科学会麻酔科認定病院</p> <p>日本臨床薬理学会専門医制度研修施設</p> <p>日本集中治療医学会専門医研修施設</p> <p>日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設</p> <p>学外研修医療機関（昭和大学）</p> <p>下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設</p> <p>日本核医学学会認定専門医教育病院</p> <p>日本脈管学会認定研修指定施設</p> <p>日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設</p> <p>日本高血圧学会認定専門医認定施設</p> <p>腹部ステントグラフト実施施設</p> <p>経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設</p> <p>日本臨床薬理学会専門医制度研修施設など</p>
--	--

国立がん研究センター東病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>・臨床研究中核病院、及びがん診療連携拠点病院です。</p> <p>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</p> <p>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</p> <p>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</p> <p>・敷地内に宿舎があり、利用可能です。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医が17名在籍しています。</p> <p>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的</p>

	余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	塚崎邦弘 【内科専攻医へのメッセージ】 内科系、外科系、放射線科系、病理系が連携し、世界最高水準の医療と研究を行っている当施設で、がん診療を一緒に学びましょう。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名
外来・入院患者数	内科系外来患者数(平成 26 年)139,175 名、内科系入院患者数(平成 26 年) 84,918 名
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある、総合内科Ⅲ(腫瘍)、消化器、呼吸器、血液の分野で、腫瘍疾患を中心に経験することができます。
経験できる技術・技能	該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域と連携した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立研究開発法人非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ 監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科学会指導医は 27 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2015 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績地元医師会合同勉強会 1 回、多地点合同メディカル・カンファレンス 18 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 23 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2015 年度実績 24 回）しています。 ・ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>大江裕一郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重</p>

	要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 27名、日本内科学会総合内科専門医 22名 日本消化器病学会消化器専門医 17名、日本糖尿病学会専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7名、日本血液学会血液専門医 10名、日本肝臓学会専門医 3名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 9,651名 (1ヶ月平均) 内科入院患者 665名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんと関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療(標準治療、臨床試験・治験)、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度修練施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会認定施設

	<p>日本放射線腫瘍学会認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練認定施設</p> <p>日本集中治療医学会専門医研修施設</p> <p>日本病理学会研修認定施設 B</p> <p>日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設</p> <p>日本臨床細胞学会教育研修施設</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設</p> <p>など</p>
--	--

河北総合病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 河北総合病院契約職員として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 子育てしながら仕事を続けられるように子育て支援が充実しています。 <p>院内保育所があります。また病後児保育もあるので安心して働くことができます。</p>
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 2 2 名在籍しています。 ・ 河北総合病院内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。(2016 年度予定) ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター(2016 年度予定)を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2014 年度実績 4 回、(医療倫理は 2017 年度より実施)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2017 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度より開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な内科剖検（2014 年度実績 19 体）を行っています。
専門研修プログラム統括責任者	岡田 光正 【内科専攻医へのメッセージ】 河北総合病院は地域の中核病院として、診療所からの紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていますので、さまざまな疾患を経験する機会が非常に多くあります。 専攻医研修を通じて専門的な診療能力を習得し、専門医の資格取得を目指し、将来の指導医としての技能を養成します。また医師としてのサブスペシャリティを問わず幅広い診療能力を身に付けることも重要です。 我々は疾病の治療のみならず、患者の生活背景を踏まえた全人的医療ができる医師の育成を行っていきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌専門医 1 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 6 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本神経学会神経専門医 3 名、日本老年医学会認定老年病専門医 1 名
外来・入院患者数	入院患者数 9,941 人（1 か月平均） 外来患者数 18,105 人（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経

診療連携	験できます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ● 日本内科学会認定医制度教育病院 ● 日本脳卒中学会研修教育病院 ● 日本神経学会専門医制度准教育施設 ● 日本呼吸器学会認定施設 ● 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ● 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ● 日本消化器病学会専門医制度認定施設 ● 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ● 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 ● 日本肝臓学会認定施設 ● 日本腎臓学会研修施設 ● 日本透析医学会認定施設 ● 日本リウマチ学会認定教育施設 ● 日本泌尿器科学会専門医教育施設 ● 日本アレルギー学会教育施設 ● 日本緩和医療学会認定研修施設 ● 日本緩和医療学会認定研修施設 ● 日本糖尿病学会認定教育施設

国際医療福祉大学三田病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<p>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</p> <p>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</p> <p>・ ※三田病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</p> <p>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。</p> <p>・ハラスメント委員会が整備されています。</p> <p>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</p> <p>・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</p>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>・指導医は9名在籍しています。</p> <p>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</p> <p>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い（2018年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，</p>

	<p>そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（一部外来症例を含みます）。 ・70 疾患群のうち 57 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 4 体、2014 年度実績 4 体、2013 年度 8 体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>佐藤敦久</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国際医療福祉大学三田病院は、東京都中央区中央医療圏の急性期病院であり、栃木・熱海・千葉医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数</p> <p>（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、</p> <p>日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者（年間実数）67,956 名 入院患者（年間実数）7,139 名</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、57 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 など

済生会向島病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	済生会向島病院常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。・医療安全、感染対策研修会を定期的開催（2015年度実績 医療安全3回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、糖尿病、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	

指導責任者	高橋 幸則 <内科専攻医へのメッセージ>・当院の特徴を一言で表すと「地域密着型病院」となります。すなわち地域での二次救急を担いつつ、医療・介護の連携さらに在宅医療の支援も行うものです。 内科専門分野については、糖尿病診療に力を入れており、区東部（墨田・江東・江戸川3区）の糖尿病拠点病院となっています。その他、消化器、神経、腎臓の専門医の指導のもとに主治医として様々な症例を経験できます。・放射線診断については、CT・MRは24時間撮影が可能であり、また済生会中央病院と遠隔診断の提携をしており、放射線診断医の報告を迅速に受けることが出来ます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医4名、日本内科学会総合内科専門医2名、日本消化器病学会消化器専門医1名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本糖尿病学会専門医3名、日本腎臓病学会専門医1名、日本神経学会神経内科専門医1名
外来・入院患者数	延外来患者5,780名 延入院患者2,783名 (H27年度1ヶ月平均)
経験できる疾患群	糖尿病は登録患者2000名を超え十分な臨床経験を積むことが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療など在宅医療の経験もできます。.
学会認定施設 (内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設